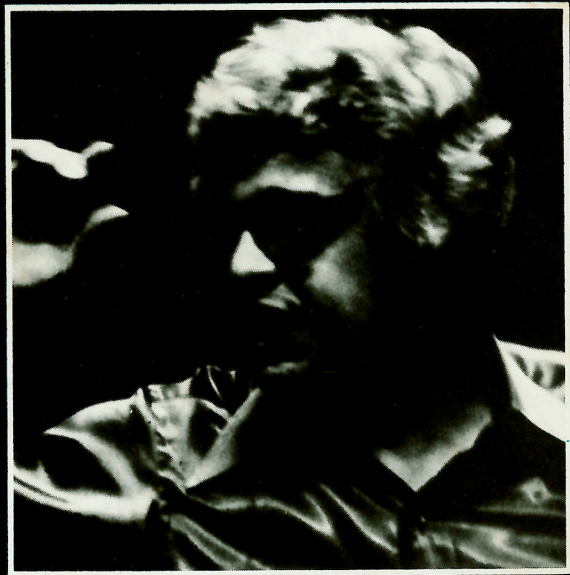


MAYNARD FERGUSON ORCHESTRA



MAYNARD FERGUSON ORCHESTRA

- 東京厚生年金会館 7:00 **29**水 主催/神原音楽事務所 後援/CBSソニー
スイングジャーナル
TDK
- 仙台宮城県民会館 6:30 **30**木 主催/仙台音楽鑑賞協会
- 山形県民会館 6:30 **31**金 主催/山新芸協 協演/ニュー・カウンツ・
オーケストラ
- 東京日比谷野外音楽堂 2:00 **6/1**土 主催/FM東京 ゲスト/関東七大学ビッグバンド
早稲田、慶応、法政、立教、明治、中央、日大
- 大阪フェスティバルホール 2:30 **2**日 主催/フォルテ音楽事務所
- 京都会館 6:30 **4**火 主催/京都音楽文化協会
- 大阪厚生年金会館 6:30 **5**水 主催/大阪音楽文化協会
- 名古屋市民会館 6:30 **6**木 主催/東海テレビ放送
- 東京厚生年金会館 6:30 **7**金 主催/東京音楽文化協会
- (6/1雨天の際の予備日)
- 8**土
- 高岡市民会館 6:00 **9**日 主催/富山新聞 協演/富山大MMS
金沢工業大学
- 福島公会堂 6:00 **10**月 主催/FESTA 協演/福島医大
- 横浜県立音楽堂 6:00 **11**火 主催/神奈川音楽文化協会

提供/神原音楽事務所



メイナード・ファーガスン 讃

岩 浪 洋 三

昨年の夏、ニューヨークのジャズ・クラブ「ジミーズ」でメイナード・ファーガスン・オーケストラの生演奏をきき、そのすさまじい演奏には完全にノック・アウトされた。最近、こんなにすさまじい唸りを生じているビッグ・バンドをきいたことがなかったので、久しぶりにビッグ・バンド・ジャズの醍醐味をあげた。

メイナード・ファーガスン・オーケストラはメンバーが若手ぞろいなので、生氣ハツラツとしており、ヴァイタリティーとパンチにあふれている。ダイナミックでシャープなサウンドにみちており、フィーリングがまことにナウなのだ。リーダーのメイナード・ファーガスンはかつてスタン・ケントン楽団の名リード・トランペッター兼ハイノート・ヒッターとして鳴らしただけに、トランペット・セクションに対してはとくにうるさいのだろう。トランペット・セクションはとくに想像を絶するすばらしさだ。ファーガスンはオーケストラを指揮するだけでなく、みずから往年を思い起こさせるスケールの大きいハイ・ノートをきかせる。その衰えをしらないプレイにはびっくりさせられる。彼は現在もいぜんスター・プレイヤーなのだ。

現在のファーガスン・バンドは70年代に入って、イギリスで旗上げされたもので、スタートした当初はすべてヨーロッパのプレイヤーで占められていたが、このところアメリカでの仕事の方が増えて、メンバーもアメリカのプレイヤーがふえてきている。現在5人がヨーロッパのプレイヤーである以外はすべてアメリカのミュージシャンだ。また、アレンジャーも最初はすべてイギリス人だったが、現在はアーニー・ウィルキンズなどアメリカのトップ・クラスのアレンジャーも作品を提供するようになった。このため、現在のファーガ

ン・バンドはスタート当時よりも一層、アメリカの伝統的なビッグ・バンド・ジャズの色が濃くなってきており、日本のジャズ・ファンに強くアピールする演奏になっているといえるだろう。いま、ファーガスン・バンドは、アメリカでひっぱりダコだが、現在は全米のカレッジ廻りで多忙な日々を送っている。彼のバンドはロック・ビートを導入したナンバーも少なくなく、現代の若者に歓迎される性格をそなえているのである。つまり、モダン・ビッグ・バンドであると同時に、プラス・ロック・バンドの要素をも合わせてもっており、

エレクトリック・ピアノやエレクトリック・ベースのサウンドと強烈なブラス・サウンドが、あるときは美しくブレンドし、あるときはまたあざやかなコントラストをなして、古いタイプのビッグ・バンドにはみられない現代的な性格をもったオーケストラといえるのである。

メイナード・ファーガスンは、さすがに長年ビッグ・バンドでの生活を経験し、苦勞してきただけあって、ビッグ・バンドのリーダーとしての資格をそなえている。メンバーを把握する力、全身これリズムといった躍動的な指揮ぶり、またはなや

かな指揮ぶりからいって、彼はまことに魅力的なバンド・リーダーといえるのである。ファーガスン・バンドをきいていても、ビッグ・バンドが成功するかどうかにおいて、いかにバンド・リーダーが大切かを痛感するのである。

ファーガスン・バンドのメンバーは若い、みんな豊かな才能をもっており、エレクトリック・ピアノのピート・ジャクソンはイギリスの出身で、すぐれた作編曲者でもあり、「テオノヴァ」「レフト・バンク・エクスプレス」など彼の作品はこのバンドの主要なレパートリーとなっている。また、ニュージーランド出身のバリトン・サクソ奏者ブルース・ジョンストンは、久しぶりに現われたスケールの大きいバリトンの新人だ。アーニー・ウィルキンズは彼の才能に惚れ、「ステイ・ルーズ・ウイズ・ブルース」をファーガスン・バンドのために作曲している。このほか、テナーのファーマディナンド・ポーヴェル、アルトのアンディ・マッキントッシュもすぐれたソロイストであり、ダイナミックな合奏とすぐれたアドリブ・ソロのみごとな調和もききどころとなっているのである。

レパートリーは、ジャズ・オリジナルのほか、現代のポップ・ナンバー、「マッカーサー・パーク」「明日に架ける橋」などがあり、4ビートからワルツ、ロック・ビートまでをあざやかに使いわけている。

現在、白人ビッグ・バンドのナンバー・ワンといえば、ファーガスン・バンドをおいてほかにないとおもう。もっか、アメリカで大成功を収め、乗りに乗っているビッグ・バンドを、その絶好調の状態できくことができるのは、まことに喜ばしいことだといえるだろう。



現代のガブリエル メイナード・ファーガスンと そのオーケストラの魅力

久保田 高司

1950年1月、スタン・ケントン・オーケストラに加わり、53年夏に同オーケストラを去るまでの間が、メイナード・ファーガスンというトランペッターの名をもっとも高めた時期であった。

そして今、1970年初頭に英国で結成した新しいビッグ・バンドを率いたメイナード・ファーガスンは、数々のレコードや世界各地での演奏によって、もっとも今日的な“若い”オーケストラのリーダーとしてコンテンポラリー・ユース・ミュージックに興味を持っている人々から大いなる支持を得ている。

また彼は、アラン・ドロン主演の映画「高校教師」の音楽の中でも重要なソロ・ロールを担当しており、したがって映画ファンや映画音楽ファンの心をも掴んだのだった。

以上のことを総合して言えば、今こそメイナード・ファーガスンというミュージシャンの花が見頃なのである。だから、そのもっともよい時期のファーガスンとそのオーケストラを聴ける私達は、非常にめぐまれているとも言えよう。

ケントン・オーケストラ時代の彼は、そして現在でもそうだが、あの信じ難いハイ・ノートでもって“成層圏トランペッター”という異名で人々を驚かせたが、そのケントン・オーケストラを辞した後彼はジャズ・オーケストラの活動に意欲を燃し、56年8月には“バードランド・ドリーム・バンド”を結成してニュー・ヨーク・ジャズ・シーンで活躍し、同年暮にはロサンジェルスにおもむいてそこでもオールスター・バンドのフロントに立ち、57年3月になるとそれを13人編成のオーケストラに改造し、同時にウィリー・メイドオン、ビル・ホールマン、スライド・ハンブトンといった優秀なミュージシャンたちの編曲を採用するこ

とによって独自のオーケストラ・サウンズをつくり上げたのだった。このオーケストラは“バードランド”への出演やレコードによって、世界のビッグ・バンド・ジャズ愛好家から大いに注目されるようになったが、音楽的な成功に反して商業的・サクセスを得ることが出来ず、いつの間にか解散してしまったのだった。そして、先にも述べたように、それまでヨーロッパの各地に於て単身活躍していたファーガスンは、70年代初めに英国で新しいビッグ・バンドを結成し、以来、その今日的なサウンドでもって数ある白人ビッグ・バンド中でのもっとも注目されるオーケストラのリーダーとなったのである。

ところで、今、ポピュラー・ミュージックの世界に於けるもっとも顕著な現象は、なんといっても“ポピュラー・ミュージックに於ける総合化”ということではあるまいか？ すでに私達は、マイルス・デヴィスの音楽やクインシー・ジョーンズの音楽、あるいはハービー・ハンコックの音楽などによってその総合化の美事な成果を経験しているが、ジャズは言うにおよばず、ポップ、ロック、R&B、その他あらゆるポピュラー・ミュージックが一体となって新しいポップスの世界をつくらせていることは否定できない事実なのである。

そしてメイナード・ファーガスン・オーケストラのサウンズの内にも、その総合化が聴かれ、それが同オーケストラのオビエラリティを支えているとも考えられる。例えば彼のオーケストラはレパートリーとリズムの一点にポップな感覚を導入し、それにファーガスンが現在までに実験し経験してきたジャズ・オーケストラのサウンズを配合することによって、あらゆる音楽ファン層にアピールする音楽をつくり出している点をもっとも特徴的なのである。言いかえれば、メイナード・ファーガスンのオーケストラは、新しいものを追求しながらもジャズ・オーケストラの伝統をも決して忘れてはいない、70年代のもっとも興味ある

ビッグ・バンドなのである。

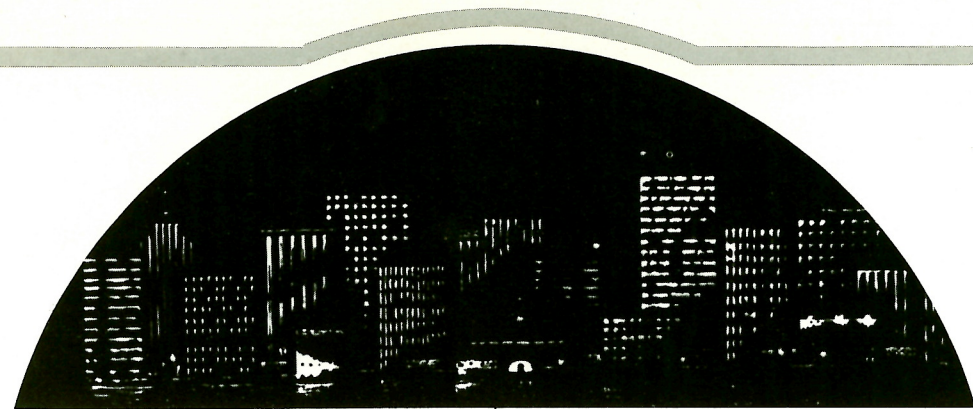
この素晴らしいファーガスン・オーケストラから得た感動を、これを聴かなかった貴方の不幸な友人たちに、どうか誇らしげに語ってあげて下さい。





MAYNARD FERGUSON & HIS ORCHESTRA

- TRUMPET-LEADER** **MAYNARD FERGUSON**
メイナード・ファーガソン
- PIANO** **ALAN ZAVOD**
アラン・ザボッド
- TRUMPET** **DENNIS ANTHONY NODAY**
デニス・アンソニー・ノーディ
- TRUMPET** **ROBERT FLEMING SUMMERS**
ロバート・フレミング・サマーズ
- TRUMPET** **STANLEY LEE MARK**
スタンレイ・リー・マーク
- TRUMPET** **LYNN GALE NICHOLSON**
リン・ゲイル・ニコルソン
- TROMBONE** **JOHN RANDALL PURCELL**
ジョン・ランドール・パーセル
- ALTO SAX** **ANDREW KENNETH MACINTOSH**
アンドリュー・ケネス・マッキントッシュ
- BARYTONE SAX** **BRUCE E.C. JOHNSTONE**
ブルース・E.C.ジョンストン
- TENOR SAX** **BRIAN STEPHEN SMITH**
ブリアン・ステファン・スミス
- DRUMS** **DANIEL D'IMPERIO**
タニエル・ディンペリオ



4月13日座談会出席者

- | | |
|---------------------|---------|
| 評論家 | 瀬川 昌久 |
| 評論家 | 悠 雅彦 |
| CBSソニー ジャズ担当 | 守崎 幸夫 |
| 慶応ライト・ミュージック・ソサエティー | 上原辰一郎 |
| 早稲田ハイ・ソサエティー | 中村敏行 |
| 日本ホワイト・リズム・エコーズ | 半井 恒一 |
| 法政ニュー・オレンジ・スイング | 藤川 裕 |
| 明治ビッグ・サウンズ・ソサエティー | 岡見 喜正 |
| 立教ニュー・スインギン・ハード | 俣野 幸昭 |
| 中央スイング・クリスタル | 湯本 英夫 |
| 神原音楽事務所 | 西 蔭 嘉 樹 |

〔瀬川〕 始めにメイナード・ファーガソンのバンド歴についてお話しすると、周知のようにカナダに生れ、1950年、22才の若さでスタン・ケントンのバンドに迎えられた。当時のケントン楽団は、プログレッシヴ・ジャズを旗印しに、モダンな演奏を指向しており、ここでその超人的なハイ・ノートを出すソロイストとして忽ち有名になり、55年までの在団期間に、スター・ソロイストとしてすっかり有名になった。彼は早くから、ビッグ・バンドのリーダーたらんことを理想とし、ケントン楽団の在団当時からスタジオ・バンドを指揮していたが、56年にニューヨークに出て、一流のスタジオ奏者を集めて、所謂「バードランド・ドリーム・バンド」と称して、ジャズのメッカであるバードランドに出演して評判をとった。こうして色々とバンド結成の下準備を重ねた後、58年遂にロード・バンドを編成して演奏旅行に出た訳です。

50年代以降は、御存知のように、米国でもビッグ・バンドの経営が益々難しくなり、ジャズを旗印にしたバンドを新しく作っていくことは至難の業とされていたわけだが、メイナードはその困難を承知の上で、尚且つビッグ・バンド界に乗り出したわけです。そして色々な工夫と才覚をこらして、バンドの人気を維持

しようと苦労した。先づバンドの編成だが、彼自らがトランペットとヴァルブ・トロンボンの両方をマスターしているの、彼の他にトランペット3本、トロンボーン2本とし、夫々セクションの合奏に彼が加わることによって、プラス6本で十分な音を出すことが出来、サクスは4本、リズムは3人とし、計13名という小人数のエコノミックな編成で、通常の大規模バンドに全く劣らぬアンサンブルを發揮した。演奏スタイルは、モダン・ジャズの主流をビッグ・バンドでやることを心掛け、ベニー・ゴルソン、ソニー・ロリンズ、ジョン・コルトレーン等の作品も好んでレパートリーに採入れた。サイドメンには、白人黒人を問わず若手の有望なモダン・プレイヤーを集め、その中からスライドハンプトン、ドン・セベスキー、ウィリー・メイドンというような人にアレンジを書かせた。これらの人が、今皆高名なアレンジャーになって活躍しているのは、全てファーガソン楽団から育ったわけだ。このようにして彼のバンドは、パリパリのモダン・ジャズを演奏したが、そのためにやゝ大衆受けのするポピュラリティーには欠ける嫌いがあって、玄人筋からは絶讃され乍ら、経営がうまくいかず、65年遂に解散してしまった。

メイナードは再びフリー・ランサーに戻ったが、いつの間にか英国へ渡って、ここで彼のアイデアに共鳴する人の支持で、英国人のミュージシャンばかりを集めて、再びバンドを結成した。そして英国内を旅行する中に評判が高まり、欧州大陸にも遠征するようになって、ヨーロッパ全土に彼のバンドの人气が広がった。そこで早速英国のCBSレコードと吹込契約がまとまり、昨年までに続けさまに4枚のLPを録音した。それらは全て米国CBSでも発売されて米国内で大評判となり、日本のCBSソニーでも4枚共出したので、皆さんもきいていること、と思います。この4枚をきいて感ずるのは、彼の新バンドは、すっかり新しいスタイルで生れ替わっているということだ。それは一口にいえば、ロックやフォークの今のヒット・ナンバーを好んで採上げ、これをロック・ビートを用いたジャズ・ロックともいべき演奏スタイルに仕上げたことです。素材はポップスでも、演奏の方は、英国の一流のライター、ケニー・ウィラーやキース・マンズフォールドを始めとする進歩的なアレンジメントを用いて、ロックのフィーリングを採入れ乍ら十分にジャズっぽい要素を残したプレイを展開しているのは、皆さんお聞き、の通りです。

ファーガスン・バンドの演奏の特色等については又後で論ずることにして、英国で生れた彼のバンドが、米国でも人气が上昇して遂に米国にも遠征するようになり、最近殆ど半分以上を米国内の演奏旅行に過ぎ程になった。従って自然にバンドのメンバーも米国人のプレイヤーを多く使うようになってきたようで、昨年米国のCBSの手によるバンドの吹込が初めて実現しました。そのレコードが最近出た「M・F・ホーン4&5」という2枚組のアルバムで、来日するファーガスン・バンドの近影を最も良く伝えているものと思われるから、CBSソニーの守崎さんから説明して頂きましょう。

【守崎】 このアルバムは副題が、「ライブ・アット・ジミーズ」とあるように、今年の7月に、ニューヨークのジャズ・クラブの「ジミーズ」に出演している時に実況録音した初めてのライブ・アルバムです。丁度ニューポート・ジャズ・フェスティバルがニューヨーク市内で開催中の時期を狙って、夜11時半フェスティ

バルが終わった頃に関演したので、沢山のジャズ・ファンを吸収し、大変な熱演が展開されています。この時のバンドのメンバーは、英国やヨーロッパから渡ったプレイヤーは5人位で、あとは全て米国のプレイヤーで占められています。プラスがファーガスンを入れて7人、サクソ3人、リズム3人という総勢13人で、恐らく今回来日するのも大体同じような編成でしょう。収録された曲目も、今までのヒット曲である「マッカーサー・パーク」や「ナイスン・ジュシー」も含まれているが、ソロなどずっと長く、よりエキサイティングなプレイになっています。又新しいオリジナルが多くなり英国人ピアニスト、ピート・ジャクソンの作った「テオノバ」・「レフト・バンク・エクスプレス」等は非常に新鮮なサウンドを生んでいます。米国人アレンジャーの作品も次第に多くなっており、カウント・ベイシー楽団で有名なアーニー・ウィルキンスの書いた「ステイ・ルース・ウィズ・ブルース」は、文字通りルースでブルージーなフィーリングに溢れたブルース・ナンバーです。このブルースというのは、又バリトン奏者のブルース・ジョンストンに引っかけたもので、彼のバリトン・サクソのアドリブ・ソロを十分にフィーチュアしています。兎に角このアルバムは、今迄のファーガスン楽団の演奏の中でも、断然最高だと思えますね。

【西蔭】 僕も、この最近作の2枚組アルバムは大好きで、ここにきかれるような演奏を実際にやるかと思うと、胸がおどる思いですよ。殊にバリトン・サクソのブルース・ジョンストンという人は、ニュージーランド出身だそうですが、今度来日する予定です。スター・ソロイストの一人だと思うし、僕はとても高く買っています。それからこのアルバムでアルト・サクソとソプラノ・サクソのソロを吹いているアンディ・マッキントッシュも今回のメンバーに入っていて、エキサイティングなプレイをきかせてくれると思います。【A】 今のファーガスン・バンドの演奏をきくと、確かに若々しさに溢れていますから、米国のカレッジで受ける、というのは大いに判る気がしますね。

リズム的にロックを使い電化サウンドを出している点については、電化すると人間本来のピュアーな音を失うという人もあるけれども、もっと若い世代の考え

になると、電化することによってより自分達の感覚に近くなる、従ってより自然だ、ということもいえるので、ウディ・ハーマン楽団なんかも最近、みんな電化リズムを使っているようです。

我々学生バンドがやる場合を考えると、オリジナルよりもどうしても米国のバンドのコピーになりますが、譜面にした時に、その通りにやれるかどうか、カウント・ベイシーの場合は、ベイシーとギターフレディ・グリーンを除けば、あとは譜面通りやって同じ音が出る、ファーガスンの場合は、彼を除けば、譜面通りにやれば良い。しかしデューク・エリントン楽団の場合は、例え譜面通りにやっても、全くそれらしい音は出て来ないという相違がある。それで、ファーガスンの場合は、他のメンバーのパートはその通り出来ても、御大のファーガスンのところを、どうやったら良いか、とてもあのハイ・ノートのソロは真似出来ないし、彼のプレイがない場合にどんなに聞えるか、と思うと、自信が持てないので、これをコピーするのはとても難しい。しかしこのバンド全体のエネルギーというのは、素晴らしいと感じますね。

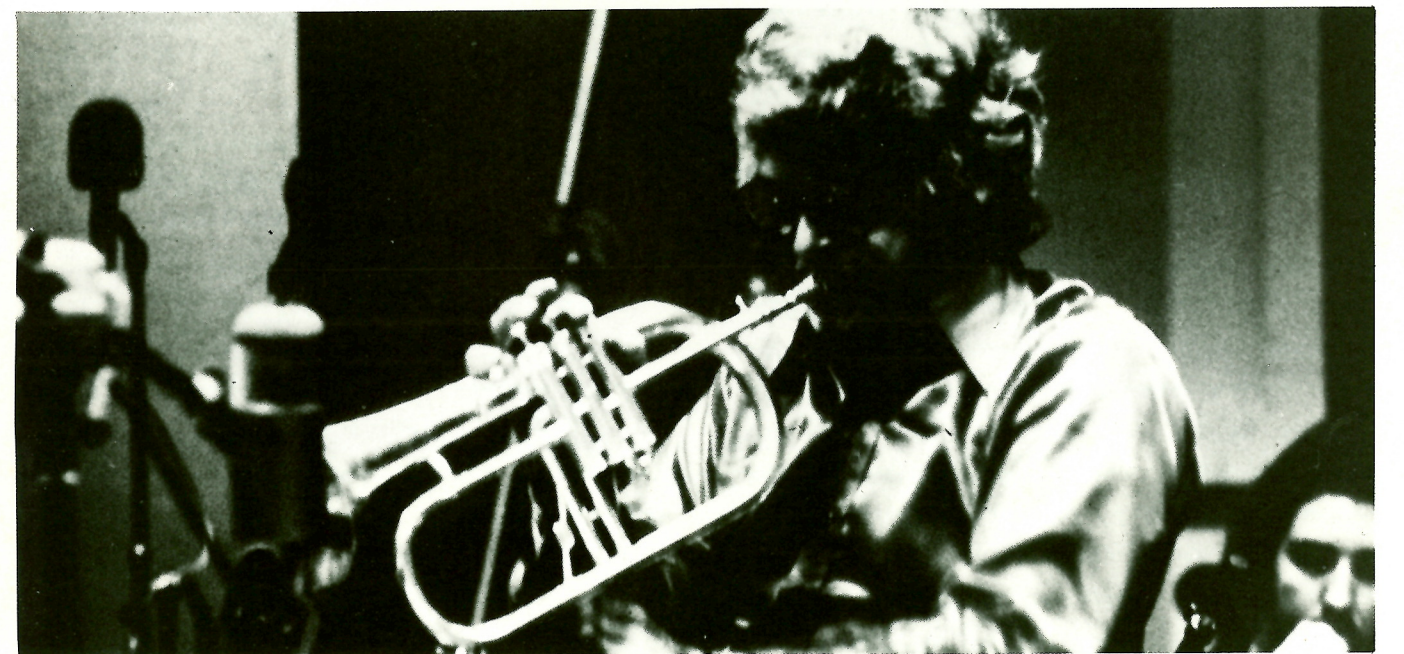
【悠】 ロックや電化リズムについては、どっちでも自分が良いと感ずる方をやればい、んで、どちらでも構わないと思うが、学生バンドがこういうファーガスンのようなバンドをきいた時、ただ引さがらないで、も

っと俺達も冒険をしてやろう、って気をおこして貰いたいと思いますね。殊に米国のカレッジのバンドをきくとその感を深くするね。カウント・ベイシー楽団のスタイルとか、今でいえばサド・メル楽団のスタイルとか、余りにそういう行き方に固執しすぎる嫌があるような気がしますね。

【A】 我々の場合、昔スウィングからカウント・ベイシーをやるようになって、それからず、んで一時フリーな奏法を追求した時期があった。その反動が来て、プラス・ロックになり又今はベイシーに戻ってきた。勿論オリジナル曲もその中に幾つか入っている。これが今の学生バンドの多くの姿ではないかと思う。その際、ロックにも、電化にもこだわらず良いと思ったものは皆吸収していきたいが、その基礎となる出発点はベイシーだと思います。

【西蔭】 ベイシーが出発点ということでは、ファーガスンだってそう考えているかも知れませんね。例えば昨年以来の彼のバンドは、米国にあって、嘗てのベイシー楽団の基礎的なライブラリーを作ったアーニー・ウィルキンスの作品を沢山採上げようとしていますね。ウィルキンスは、ハリー・ジェームス楽団が白人ベイシーを目標にした時にそのレパートリーの大部分を提供した人ですからね。

【B】 我々は、先輩からの影響もあって、ファーガス





を持っています。ペイシーをやったら我々に敵わない、といわせようと思って、本物に近くやろうとします。しかしエリントン、余り演らないけれども、演る場合にも、本物にそっくりやろう、というわけではないですね。そこに、コピーというものにも差が出てくるわけです。又サドメルの曲をやる場合、ソロをそのままやっても、或いは全然のりを変えてやっても良いと思うし、譜面の中で、繰返しのコーラス数を変えても良いと思いますね。そういう意味で、コピーといっても完全にコピーする場合と、単に素材を借りてきて自分達なりに消化しよう、という場合とある。ペイシーは基礎になっていると思います。

〔G〕 音楽の原点というのは、先づ演って楽しい、というのが大事だと思うんです。2・3日前に一般社会人のビッグ・バンドを聴きに行ったのですが、50才過ぎ位のオジさんがバリトン・サクソ吹いて、一生懸命のつるんですよ。練習中でも。それを見て、今のウチの学生バンドにも、それが一番欠けてるんじゃないか、と思ったんです。今の学生バンドは先輩のレベルを維持することに吸々としていますが、演って楽しい、ということを追求する、といったこともあって良いんじゃないか、と思うんです。例えレベルが落ちこっちゃっても、楽しくやる。アドリブにしても自分流に解釈してやる。米国のソロイストのアドリブする心は、我々の心と違うんだから、幾らそのままコピーしても、それはコピーする喜びで、自分達の心の中から作り出していくっていう喜びとは違う気がします。だから、レベルというのをいつも気にしますが、レベルというのを或程度取っばらって、音楽をやる楽しさ、ということへ帰っていったらどうか、と思うんです。

〔瀬川〕 学生バンドの場合は、先づ学校時代の音楽生活を悔いなく喜びを以て過す、ということが目標になる。しかしプロのバンドの場合は、聴く者を喜ばせる演奏をする、とかレコードで後世に、今迄になかったものを残すため吹込んでおく、とかいうような目的もあるから、基本的な違いがあるかも知れないね。

〔G〕 まだ学生ですから、きく者を納得させるより、先づ演る方自身が楽しむ、ということの方が、僕自身としては大切ですね。そうすれば卒業して社会人になっても、音楽の技術的な面の追求でなくて演ることの

喜びとか楽しさを追求するために週1回夜集るというならわしも生れてくると思うんです。

〔瀬川〕 米国の場合は、全国のバンド・コンテストがあって、地区別に予選、決選と、プロ・ミュージシャンによって審判されるから、プロの耳に訴え、投票させるためには、コピーじゃだめで他のバンドにないものを優れた技術でかかせなければ勝てない。勝てれば嬉しいという演奏する喜びが出てくる。しかし日本の学生バンドの現状には、そういう喜びがないわけですね。

〔西蔭〕 どうも話しが少し深刻になってきたので、余り固くならず、こゝらでどうですか、白人バンドと黒人バンドとの違い、というものがあるのか、とか、今度のバンド・フェスティバルの企画、学生バンドが7つ出て、最後にメイナードのバンドが出てしめる。これは日本で初めての企画と自負しているんですが、どういう風に学生バンドとの交流をやっていくか、その抱負とか、話してくれませんか。余りコピー、コピーというヤバいんで、もう少し一般論で話したら面白くなるんじゃないですか。

〔悠〕 さっき僕の言った冒険性というのは、そういうところにもあるんでね。もともと大学のビッグ・バンドというのは、小さな枠の中に閉じこもって、ウジウジやってほしくないわけですよ。もっと大きなところに飛び出して行ってほしい、と思うんだけど、現実にはそういうサークルみたいなものがないね。これは誰かがやらなければいけない訳で、今回神原さんのところが、こういう企画をやってね、これが布石になればね、非常に良いことだと思うんですよ。モントルー・ジャズ・フェスティバルなどに行くからね、実際に米国の学生バンドが6つも7つも出るわけですよ。皆プロにない楽しい味があるわけだ。それでうまくないか、というとしてそんなことはない。一応全米で覇を争って来た連中だから、うまいんだが、何か日本の学生バンドに無い良さを持っているんだな。それはやっぱりサークルが色々あって、カレッジ・バンドが出て行って演奏出来るという舞台もチャンスもあるんですね。先づそういう環境作りから一つやっていく必要がある、と僕は常々言っているんですよ。冒険性というのは、だから僕は非常に広い意味で言ったんで、一寸誤解を

受けただけでも……(笑)

〔C〕 冒険性という問題で、やはり僕達は、自分達の思っている音楽をやりたい。その意味でやはり書く人がいなければ、コピーになっちゃう。そこで又1つの行きづまりがある。去年学祭にブルーコートに来て貰って、自分達の手でその演奏の中から良いものをとろう、と考えた。結果的にずい分刺激になったし、良かった、と思いました。米国の学生バンドが、プロのバンドをしょつ中よべる、というのは羨しいですね。

〔悠〕 そういうのを、僕はほとんど伸ばして欲しい。そういうのは第1歩でしょ。2歩も3歩も伸ばして欲しい。まあ、とりあえず、今回の舞台は非常に良い企画だと思う。色々な人が見に来るし、ジャーナリスティックな話題にもなるでしょ。皆例えば、どういう気持ちで、こういう舞台に臨むのか、それからメイナードを迎えて、彼等から何も学ばない、ということはないと思うな。何か学ぶ点がある筈だ。そういう点を聞きたいな。

〔D〕 僕は中学時代から各大学バンドをききに行きましたが、前はラッパなんか貧弱でスカスカしていたのが、2年位前から、何かラッパが俄然鳴り出したんですよ。それは、ファーガスン・バンドの影響が大きいと絶対に思うんですよ。僕はファーガスン好きでね。CBSから初めて出た「ホーン1」のレコードきいて、こんなに高い音が出る人か、とびっくりした。そしたらとたんに学生バンドのラッパの出る音が1オクターブ位高くなったようですね。僕が高3位の時ですね。あの音にはしびれると思いますね。

〔悠〕 目の前にしたら、僕はぶったまげると思うね。

〔瀬川〕 どうですか、7つの大学バンドが皆ファーガスンの曲を1つ必ずやることにして競争したらどうですか。(笑)

〔悠〕 あのバンドは兎に角きいて一番楽しい。耳にして直ぐ楽しいということが判る。きく方だけでなく、バンド全員が演奏を楽しんでますね。今の日本の学生バンドも、ああいう形で、自分達が楽しみ乍ら、聴衆もエンジョイさせる、というやり方は、やっぱり学んでほしいと思いますね。

〔E〕 ただね、ファーガスン・バンドのラッパのセクションは、ファーガスン以外、やって楽しいか疑問

ですね。彼だけが前に出ている。「チェイス」の場合も、ビル・チェイス以外のラッパも皆リードの出来る立派な人が2番、4番を吹かされている。本当に自己主張する人なら、入らないんじゃないかと思いましたね。

〔悠〕 とに角当日、唯大学バンドが自分達のレパトリーをやるだけじゃ芸がないね。例えばプロのプレイヤーを1人宛アドリブ奏者によぶとか、幾らでも方法があると思うよ。

〔瀬川〕 審査員をよんできてコンテストをやったら？
〔悠〕 いいねえ。ファーガスンを連れてきて審査して貰ったら？

〔瀬川〕 ところが残念乍ら、彼は当日地方から帰って来るので、開始の2時には間に合わぬそうですが、是非彼からコメントを貰いたいですね。

——ここでファーガスンのレコードをかける。

〔瀬川〕 どうですか。この早いラッパのパッセージ、きいて楽しくないですか。

〔F〕 楽しいですが、先づ我々には出来ないんじゃないですか。

〔悠〕 いや、それじゃいかんですよ。

〔F〕 我々ファーガスンきくのはね、目覚めの音楽か、ストレス解消の為なんですよ。そうだと思いますか？

〔ABC異口同音に〕 いや、俺は出来るに越したことはないと思うね。

〔瀬川〕 一つ、演ってみたらいいんじゃないか。

〔悠〕 今意見が出たけれどもね、当日7つの学生バンドが出るわけでしょ。そこからピック・アップしたメンバーでバンドを作って、1曲だけファーガスンのナンバーをやる、最後にね。そしてファーガスン・バンドに受渡す、というのは良いアイデアじゃないかな。

〔瀬川〕 今きいたスライド・ハンブトン作の「ゴット・ザ・スピリット」なんか良いじゃないですか。この最後のところの全員の合唱で「アーメン」というのね。この「アーメン」でファーガスン・バンドに渡したら。(笑)

〔西蔭〕 まあ、フェスティバルですから、これを盛上げる色々なアイデアを出して下さい。そして総合司会は悠さんですから、皆さんの学生バンドの個々の司会は、女子の学生の人を出して下さい。



【悠】そして僕は彼女等にかからんで良いんでしょ?(笑)

【西蔭】まあ、ファーガスンをきくのはストレス解消でもいいんだけど、今まで君達学生バンドとプロのバンドの間が、僕も学生バンド出身だから判るんだけど何となくセクト的に分れていたんで、もう少し何とかヤンキー魂みたいなものを学生バンドも持ってほしい、と思うし、ファーガスン・バンドが米国のキャンパスで人気があるのも、恥じらいもなくピースカピースカやるからじゃないか、なんて思ってもみたりするんです。

【瀬川】だから、もっと若い女の子にモテるような音楽やってファンを集めてやれ、式の意味があっても良いのじゃないかな。

【A】ファーガスンの音楽は、すごく派手さがあるでしょ。だがら演ればすごく若返ると思うし、馬鹿にならなければ出来ませんね。(笑)

【瀬川】バカになる必要ないんで、それで良いんじゃないかね。

【A】バカになる、というのは語弊がありますがね。それともう一つ、学生バンドの連中には、ローブになろうという目標がないですね。歌伴ばかり演ってますからね。米国では、プロになることが一つの目標じゃないかな。

【B】日本ではプロバンドがアイドルになりませんね。向うでは、ファーガスンは全てのリード奏者にとっていつでもアイドルでしょ。一番ラッパを吹く奴は、いつもファーガスンをアイドルにしてやってるでしょ。その面ではファーガスンのレコードが出てから日本のバンドのラッパの音が良く出るようになった、という一大貢献をしていますね。日本のバンドでは、あ、いう点を真似たい、というところが仲々ありませんね。

【悠】いや、日本の学生バンドは実にうまくなっているよ。やらせれば実にうまい。唯そこに何か一つ足りないものを感じるなあ。

【C】ウディ・ハーマンのバンドなんか、カレッジの奏者がどんどん入っているという話ですな。

【瀬川】スタン・ケントンもそうだし、ファーガスンの今のバンドもそうだろうな。

【悠】僕は、カリフォルニア大学に行って、学生バンドの練習やシステムを見てきたけど、必ずコーチが何

人かいて、その一番上のコーチはプロにつながっている。例えば、マックス・ローチがきて、教えたりする、セシル・テイラーのような人達ですら、バンドに教えている。日本でそこまで直ぐいくのは無理でも、何か学ぶ点があるんじゃないかな。特にファーガスンのオーケストラがキャンパスで人気があるっていう秘密は、おそれとは判らないんで、やはりナマの音をきいてみなければ、ピンと来ないと思うよ。ところで神原さん、このようなフェスティバルは毎年やってくれるんでしょ。(笑)

【西蔭】ウチの事務所は今迄割にビッグ・バンド招んでいます。エリントン、ベイシー、クインシーとか。ベイシーは先程から話しが出たように学生バンドの教則本みたいなもの。エリントンは一寸別格でソツとした方が良い(笑)。となると、白人のバンドでこれだけドライブ感があって、シャープでハッピーなバンドは他にない、という感じで、こういうメイナードあたりをきいて、総体的にジャズを語れるような人でないといかん、という気持ちで企画してるんですよ。

【瀬川】このバンドは、ロックのファンにも受けるんじゃないかな。

【D】日本には本当にイカすロックがないんです。ギンギンなロックか、モロズージャカ、ということになっちゃう。イカすエイトが仲々ないんで、そういうのを探すときには、ファーガスンは仲々良いんですよ。

【E】日本でよく音楽をジャンル分けするのは良くない、といわれますが、それは聴く者の立場であって、僕等演る方としては、いつも自分がどこの土台に立っているかは、いつもはっきりしている。音楽をジャンル分けするのが悪いとは、はっきりと言い切れないと思うんです。僕らが音楽をきいて考えるとき、黒人が白人か、とか、エレクトリックかナマか、ファーガスンも時々ナマでやってますね、それからエイトかフォー・ビートか、とかいうような分け方よりも、暖い音楽か、冷たいものをきく耳がある。勿論僕ら暖いものを作っていきいたいんだが、その土台となるものはジャズだ、という考えがある。演奏する側にそういう考えは絶対あると思うんですが、ファーガスンはその点をどう考えているんでしょうか。昔のモダン・ジャズ的方向から転換してロックをやるようになったのは何故か。す

ごい疑問なんできいてみたいんですね。

〔F〕 僕は判るような気がするんですよ。昔のレコードは余り売れなかったらしいが、時々レコード屋で見付けて買ってみるとフォー・ビートでも可成りきけるんですよ。それじゃ結局食えなくて解散しちゃったんでしょうね。

〔B〕 学生バンドにはそういう悩みはありませんね。

〔瀬川〕 だから、それが又障害にもなり得るんだ。きびしさが無いという。プロのバンドは食えなければ明日から失業ちゃうからね。

〔F〕 僕は思うんですが、黒人のレコードと白人のものを比べると、やっぱりジャズのリズムは黒人の方が良くスウィングしますね。ところがロックというリズムになると、白人の方が、のせるのがうまいですね。しこたま、下の方でこうやってグイグイ押していくのが黒人で、上の方でチャラチャラやって引きつけるのが白人で、そういうのがうまいからファーガスンもそっちへ行っちゃったんじゃないかな、という気がします。

〔瀬川〕 いや、ファーガスンは昔から黒人の優れたプレイヤーも採用したんで、ルーファス・ジョーンズなんかずいぶん長くドラムを叩いていたんだよ。

〔B〕 そういうことは誰でも考えるんじゃないかな。ジャズは元々黒人が始めて、白人が真似して、日本人もやるようになった。しかしそれを考えてちゃ何も出来ない。秋吉(敏子)さんにいわせれば、黒人と同じ生活をして同じ物を食っていなければ出来ない、ということを書いてますがね。しかし演る分においてそこまで行く必要はないと思うんですね。

〔A〕 大きさに言えばね、日本人である我々がジャズをやる必然みたいなものが判らなくなる。

〔瀬川〕 でも、好きで好きでたまらないってことがあるんじゃないかな。

〔A、B〕 それが原動力ですね。

〔B〕 もっと言えることは、ジャズがもっとクラシックと同じ基盤であってほしいと思いますね。テクニックの面で。例えば、サド・メルのリハーサルを見に行ったんです。そしたらあの3番ラップのガレスピーの弟子の人(ジョン・ファディス)が一番クラシックの勉強してるんです。音はクラシックとは違うが、彼が

一番クラシックを勉強しているんだ。クラシックから来た人に教わったりしている。僕等の基盤にはそういうのが無い。

〔瀬川〕 いや、今の日本のプロとクラシックは交流している人が何人かいますよ。

〔F〕 僕らの中では、全然分れている。そして僕らが練習するには、クラシックの教則本を持ってきて、それからジャズのリズムをとっていきしかたない。これをもっとバッチリやってほしいと思いますね。

〔B〕 楽器に関しては、クラシックと同じ程度に精通していなければいけないと思うんですよ。ところが今の日本のジャズ・ミュージシャンはテク的には絶対に劣るんですよ。だからもっとバッチリ基盤的なものを身につければ、それなりのものが出てくると思うんです。

〔E〕 僕はそれ程でもないと思いますがね。

〔悠〕 僕も、そうは思わないねえ。僕はそんな劣等感、クラシックに対して絶対持つ必要はない、と思うね。

〔B〕 いや、劣等感じゃないですよ。同じ楽器を一しょにやってきて、そこから俺はクラシックに、俺はジャズにと極く自然に分れていくのが良いと思うんです。それが今の人は、クラシックの基礎もやらないで、唯ジャズが好きだから一生懸命やるというだけで、楽器のテク的には少しも上達しないと思いますね。同じ楽器をマスターするという点で、クラシックの奏者の方が完全に上をいっている。

〔悠〕 その場合のテクニックというのは何をさしているのか判らないけど。

〔E〕 楽器をいかにうまく使えて、難しい高度なことが出来るか、ということ…

〔D〕 それは最初楽器をつかんだ時点の相違じゃないかな。向うでは、小さい時から楽器をちゃんとつかんで、小学校でもプラス・バンドをやるし…。日本じゃ、中学校で始めて極く限られた小人数がプラス・バンドをやって楽器をつかむ。

〔瀬川〕 それは学校の音楽教育の問題だ。日本でも、どこかの小学校の先生が、グレン・ミラーが好きで、小学校のバンドがグレン・ミラーを立派にやっている、という話で、あゝいう連中が育てば将来は良くなるね。

〔学生全員〕 それが理想的なんだ。

〔瀬川〕 米国では今若い音楽の先生が沢山育って、小

学校からどんどんジャズを教えるそう。それが日本じゃ出来ない、というところに、日本の社会状況の貧しさがあるんだ。ジャズ・ミュージシャンが小学校の音楽教師になって尊敬されるようになって初めて芽が育つんだろうな。何百年かかるか判らないけどね。

〔F〕 僕の中学校で、僕の入る5・6年前に、恐らく日本で初めて、プラス・バンドで「聖者の行進」をやろうとしたんです。そしたら教師から、ジャズはいけないって、絶対に押えつけられちゃったんです。しかしブラ・バンの上層部を見ると、うまい人は全部ジャズに行っちゃう。下手なのが音大に行く…。

〔B〕 その点は違うね。我々のところでは、トップ・クラスは全部音大に行くよ。うちのクラブの人なんか、国立へトップで入ったしね。

〔C〕 手段として楽器を完全にマスターするには、クラシックの教則本というのは、一番徹底しているわけですから、ジャズの教則本には、クラシックの教則を土台にしてそれからやるように、と書いてある。

〔B〕 ビル・チェイスなんか、18才でリード・トランペットになったが、それから又クラシックの先生について徹底的に勉強し直している。そういう風に完全に楽器をマスターしないと、自分の音楽の範囲も狭くなってしまう。

〔A〕 だから僕ら、日本のバンドでも向うのバンドでも、先づ音が揃ってるか、ということに気にしてしまう。その場合、フレーズが合うということと、フィーリングが合うということと両方あると思うんです。ベイシーはフレーズが合うがエリントンがフィーリングが合っちゃう。そういう面で、我々学生バンドの耳は、どうしてもアンサンブルを気にして聴いてしまうんです。

〔B〕 学生バンドの現実としては、やはりベイシーの力で揃えるということに方向としてはいくと思うんです。良い奴ばかりでなく、駄目な奴もたゞき乍らやっていく、という現実があるでしょ。4月にはいつもメンツ交代するし、そういう意味で、所謂小市民的になるかも知れないけれど、社会の縮図ですね、学生バンドというのは…。(笑) だから、ベイシーのあの線というのは基盤として動かしがたいですね。更に発展出来れば、サド・メルの方向に行っても、又ファーガス

ンの方向にいつでも良いと思いますね。

〔B〕 ガトー・バルビエリがね、結果的に良いかどうか知らないけど、兎に角アルゼンチン色をもちに前に出して、胸を張って堂々とやっていますが、あゝいうことが日本には、モロにないんですよ。日本に昔からあった民謡でも何でも良いから、胸を張って出せる人は何人いるか。

〔守崎〕 秋吉さんがやっていますね。それからニューハードも。

〔悠〕 結局君達胸の開き方がまだどこか狭いんだな。

〔E〕 ファーガスンの話に戻ると、ファーガスンのようにハイ・ノートの出せる人は滅多にいない。普通Gどまりで、而もあのように太い音で出せる人はいない。そこに彼の魅力がある。

〔A〕 ファーガスンの偉いのはスコアを書く上ですごく音域を広げていること、それから彼がバルブ・トロンボンも吹けること、バンド全体にも貢献しているね。

〔E〕 僕はね、ファーガスンが「テンダリー」を演ったのをきいて凄く良いと思いました。最後のところなんか。凄い。

〔悠〕 こういう素晴らしい舞台を君達で活用してほしいんだ。それをやってどうなるかじゃなくて、どうにかしていかなければいけないんですよ。布石になるんだし、して行ってほしいんだ。僕等も側面から色々今後出来ると思うんだ。

〔西蔭〕 そうですね。今迄の大学バンドのあり方を一歩進展させたような。

〔A〕 そういう意味じゃ、各大学からのピック・アップ・メンバーでやったら、皆が1曲宛やっても結局しのぎを削るだけになっちゃう。交流とか親善とかいう点で、ピック・アップの方がもっと効果的だと思いますね。

〔西蔭〕 それじゃ、メイナードさん、ようこそという意味で、ピック・アップで彼のレパートリーを1曲彼に進呈してきかせることにしましょう。彼のバンドが出る夕方6時の前に、悠さんに紹介して頂いて最後にきかせることにしましょう。

〔悠〕 本当の意味の交流に良いチャンスだと思いますね。大いに利用してほしいですね。

(終)

大学バンドプロフィール

6月1日(土) 日比谷野外音楽堂

2:00~5:30 7大学ビッグ・バンド

6:00~8:00 メイナード・ファーガスン・オーケストラ

慶応大学

ライトミュージック・ソサエティー

学生フルバンド界に君臨して29年。一味違うと皆様にかわいがられてきた。慶応ライトミュージック・ソサエティーの'74のデビューです。ジャズの多様化の波の中で、ジャズを支える4ビートを中心に、レパートリーを拡げてまいりました。

今日はプロと一緒にありますが、音の老舗の自覚をもって演奏しますので、一味の違いを御覚味ください。

早稲田大学

ハイ・ソサエティー

本年度19年目を迎えた我々早稲田大学ハイソサエティーオーケストラはあらゆる有名バンドの曲を手広く手がけまたこなしています。他の大学の有名ビッグ・バンドと共に本日すばらしいテクニックとはぎれのよいリズム、そして無類のハイノート・トランペット群を誇るメイナード・ファーガスンを迎えここにビッグ・バンドのすばらしさを皆さんに味わっていただきたいと思ひます。

明治大学

ビッグ・サウンズ・ソサエティー

こんにちは、明治大学Big Sounds Societyです。本年度の活動もようやく軌道に乗り始め、本日のコンサート出演がその第一弾です。メイナード・ファーガスンといえはあの強烈なハイ・トーンとサウンドで知られていますが、私達もそんなガッツあふれる演奏をお目にかけたらと思ひます。が……。尚、本年度末、私達初の試みとしてリサイタルを計画しています。皆様どうぞよろしく!!



法政大学

ニュー・オレンジ・スイング

苦しい、苦しい、なんて苦しい日々が続くのだろうか。あのBeatがあつたまま。でもでも、感が欲しい。欲しくてたまらない。でもでも、あがけばあがくほど手の届かない所に行ってしまう。今日も練習だけで一日が終つてしまう。それでもかまわないあのフィーリングが一度でも味わえれば……こんな連中の集まりが法大ニュー・オレンジです。

立教大学

ニュー・スウィング・ハード

ベイシーバンドに憧れて、フルバンドを作った早稲田。若さと馬力を頼りにし、キリストさんの膝元で、騒音公害散らし、どうやら格好がついて来ました。学生バンドらしく、ジャズを楽しむ事をモットーに、その我々の演奏を気に入っていただければ幸いです。いずれにしろ、皆で一緒に楽しめれば、それで最高。

日本大学

ホワイト・リズム・エコーズ

部を結成し、かれこれ13年という長い期間を経、音楽を通しての数々の足跡を残してきました。しかしその全貌においては、類推される多くの困難な音楽的な問題があります。しかしそこには我々を楽しませてください。今年回来日しました、メイナード・ファーガスン・ビッグバンドもその一つにあります。今回我々と共演していただく事を部員一同情熱をもってぶつけたいと思っております。

中央大学

スウィング・クリスタル

結成以来約30年、私たちスウィング・クリスタル・オーケストラは、毎年メンバー移動の中で、数々のコンテストに良い成績を残し、そして現在部員不足のどん底の中でベイシーを愛し、エリントンを愛し、サドメルを愛し、そしてジャズを愛する若者の集団スウィング・クリスタルは、常に努力を惜みず前進しています。

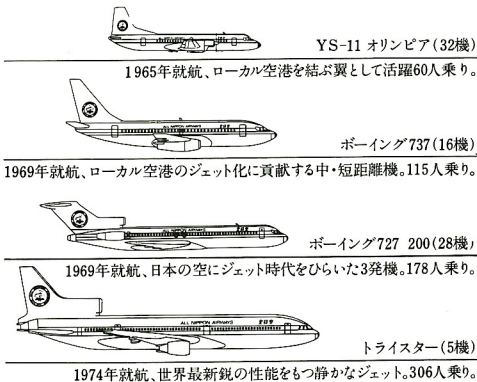
ジェットファミリー81機。

いま、静かなトライスターも活躍—全日空の翼が一段と大きく充実しました。



トライスター。静かに、快適に、そして完全自動着陸さえできる高性能…いま世界で最もすんだ306人乗りジェットです。全日空では、この春5機のトライスターを導入。現在、東京—札幌、東京—福岡、東京—沖縄線に就航させています。さらに、来年末には計14機のトライスターが日本列島の幹線をネットする予定。つねに日本の空をリードしつづけてきた全日空が、新しい翼を大きくひろげているのです。いま全日空の翼は81機(1974年5月現在)トライスターの導入により、全日空の保有機数はじつに81機。60人乗りから306人乗りまで4機種。身近な「空のアシ」としてご利用いただいている全日空の翼がますます充実したのです。81機…この豊

富な機材の数も、全国35都市を毎日430便以上がネットしていることを考えてみれば、当然とも言える結果でしょう。さらに翼は香港など、東南アジアへも。全日空は、文字通り日本列島最大の翼として、その実績を着実にのびつづけています。行きたい時に、行きたいところへより速く、より快適に。日本全国すべての都市をジェットで結ぶ日も間近です。隣り街をふやしつづける全日空にご期待ください。



ささやくジェット

トライスター



演奏会の御案内 神原音楽事務所



ハービー・ハンコッククインテット

7月16日(火) 東京厚生年金会館 7:00p.m.
7月28日(日) 東京厚生年金会館 7:00p.m.
7月29日(月) 東京厚生年金会館 7:00p.m.

7月/17日青森・18日横浜・19日京都・20日合歓の郷・22日大阪
24日神戸・26日徳島・30日広島・31日名古屋

クインシー・ジョーンズオーケストラ

10月9日(水) 東京厚生年金会館 7:00p.m.
10月24日(木) 東京厚生年金会館 7:00p.m.
10月29日(火) 東京中野サンプラザ 7:00p.m.
10月/10日新潟・11日名古屋・12日静岡・14日山形・15日仙台
16日盛岡・17日秋田・20日大阪・22日京都・23日広島・25日福岡
26日鹿児島・28日小倉



輝かしい金管楽器群の響き……ブラス・アンサンブルの原点

フィリップ・ジョーンズ・ブラス・アンサンブル PHILIP JONES BRASS ENSEMBLE

11月8日(金) 東京厚生年金会館 7:00p.m.
11月15日(金) 東京文化会館 7:00p.m.



アール・ファーザ・ハインズトリオ

12月5日(木) 東京厚生年金会館 7:00p.m.
12月/9日大阪・12日横浜・13日仙台・15日秋田
その他各地で公演予定。



コモエスタ セニョール&セニョリータ!!

ラテン音楽とすばらしい料理が貴方を待っています

出演者 エル・ハボネス トリオ・ロス・チカノスとペピータ
ドス・アルポリートス マリキータ & ジロー

営業時間
AM11:00~PM6:30サービスタイム
PM6:00~PM11:00サパータイム



新宿西口緑屋となりTEL363-6931~2

このプログラム御持参の方に10%のサービスを致します。



Maynard's Horn is Maynard's Horn

●最高音域にかける夢を
可能にする
待望のトランペット登場!!



メイナード・ファーガソンが
彼自身のために研究開発した
高級トランペットをお届けしま
す。マウスピースをはじめ、ベル、
バルブなどこまかいところまで、ひと
つひとつ綿密に計算された独特な設計が
トランペットの可能性を一段と広げまし
た。高度なテクニックにも安定したサウ
ンドで応え、高音域にも力強い輝きを失
いません。それ自体が生きもののように
プレイヤーの個性に敏感に反応します。
常に最高のサウンドを求めてやまない、
プロ精神の結晶です。

《特徴》

●マウスピース——バックボアを広くと
る独特なデザイン。安定した最高音域が

得られる。

●チョークベル——マウスピースの特殊
性と反応し合って、トランペットのコン
トロールを容易にしている。

●バルブ——ボアサイズ(468)とチュー
ニング・スライドのために特別に開発し
てある。これによりバルブ内のゆがみや
抵抗を小さくさせている。

●ピストン——酸に強いモネルメタルを使用。

世界のアーティストが
愛用する。

プリマサクソホーン

- ソプラノ S-6 (ゴールドラッカー仕上げ) ¥140,000
- アルト A-50 (F#キー付ゴールドラッカー仕上げ) ¥106,000
- テナー T-50 (F#キー付ゴールドラッカー仕上げ) ¥120,000



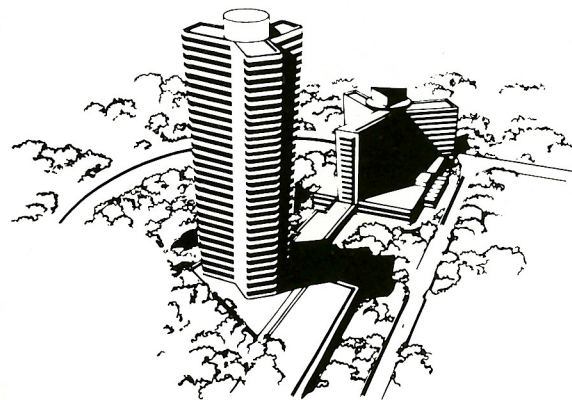
★EVERYTHING FOR BIG BAND★

RIBA MUSIC

●コンサルタント 伊波秀進

〒141 東京都品川区東五反田5丁目10番26号 池田山レジデンス301号
☎(443) 4765 (752) 1611

緑の日本庭園に
かこまれた
ゆとりのホテルです。



ホテルニューオータニタワー
(9月1日オープン)

●ご予約・お問合せは

The New Otani

ホテル ニューオータニ

東京都千代田区紀尾井町4

☎(03)265-1111

国電・地下鉄 四ツ谷駅下車 徒歩6分
地下鉄 赤坂見附駅下車 徒歩3分

DIG

MODERN JAZZ TEA ROOM

〈新宿二幸裏〉

DUG

MODERN JAZZ & BOOZE

〈新宿紀伊国屋裏〉

MODERN ⁱⁿ BAR アカシヤ
JAZZ

二幸裏口際

TEL (354) 7886 (352) 6367

新譜レコード続々入荷



MODERN
JAZZ & COFFEE



●浅草国際通り仁丹塔際

フラミンゴ

ジャズ喫茶は2階に移転しました

京都のジャズの老舗

しあん
くわーる

京・河原町荒神口電停前

TEL 222-1588 221-0519

呪縛の ブラック・ファンク

ときには
黒人の持つ
強靱なリズム感と
黒いファイリングに
身も心もゆだねてしまいたい……
NOWなサウンドを求めるとホットなキミに
スイング・ジャーナル6月号は
あらたな胎動をみせはじめ
ハービー・ハンコックや
ドナルド・バードの
ブラック・ファンク
大特集です。

スイングジャーナル6月号

絶賛発売中=520円(千80円)

スイングジャーナル 東京都港区芝芝草町9-3 千105 ☎432-7751(代) 振替東京97405



●製品および番組に関するお問合せは、TDKサービスセンター ☎(03)257-2570 東京電気化学工業株式会社 東京都千代田区西神田2-14-6 101

FMで楽しむ深夜の本格ジャズ番組。 TDKアスペクトインジャズ。

'73

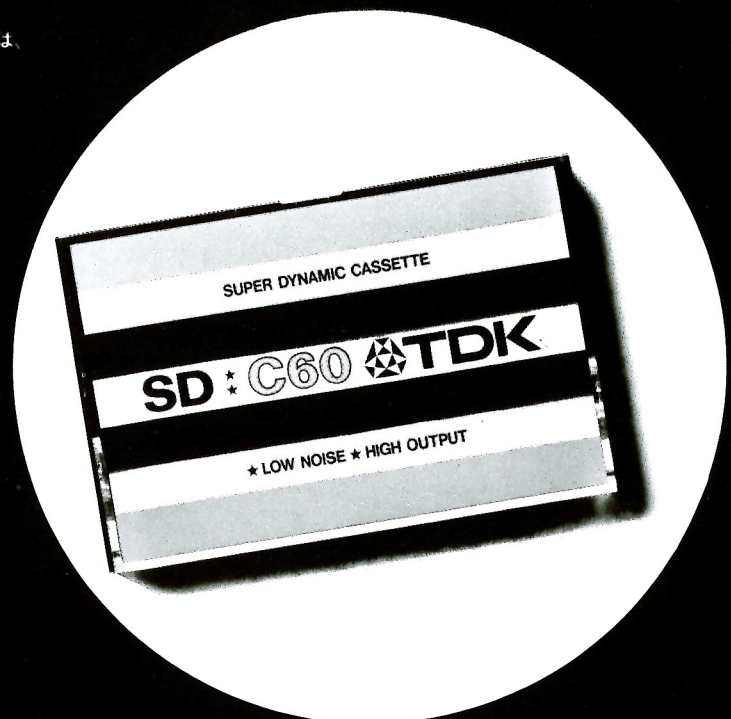
- 1月: マイルス・デヴィス (9回9時間)
- 2月: マイルス・デヴィス
- 3月: ソニー・ロリンズ (4回4時間)
- 4月: ビリー・ホリデイ (4回4時間)
- 5月: クリフォード・ブラウン (5回5時間)
- 6月: チャーリー・ミンガス (4回4時間)
- 7月: ジョン・コルトレーン (9回9時間)
- 8月: ジョン・コルトレーン
- 9月: エリック・ドルフィー (4回4時間)
- 10月: テューク・エリントン (5回5時間)
- 11月: セロニアス・モンク (4回4時間)
- 12月: ウディ・ハーマン (4回4時間)

'74

- 1月: チャーリー・パーカー (9回9時間)
- 2月: チャーリー・パーカー
- 3月: MJQ (4回4時間)
- 4月: バド・パウエル (5回5時間)
- 5月: アート・ブレイキー (4回4時間)
- 6月: オーネット・コールマン (4回4時間)

毎週火曜日深夜、
熱烈なるジャズファンにお贈りする
FM本格ジャズ番組。
マイルス・デヴィス、ジョン・コルトレーン、チャーリー・パーカーは、
それぞれ9回9時間にわたって放送するなど、
従来の番組では考えられない
スケールの大きい番組です。
これからも、1人のジャズマンの歴史、グループの歩みを
数週にわたって放送してまいります。
乞う、ご期待。

- FM東京 = 毎週火曜日・深夜25時
- FM愛知 = 毎週火曜日・深夜25時
- FM大阪 = 毎週火曜日・深夜25時
- FM福岡 = 毎週火曜日・深夜24時15分
- 監修・解説 = 油井正一
- 構成 = 佐藤秀樹
- 提供 = TDK



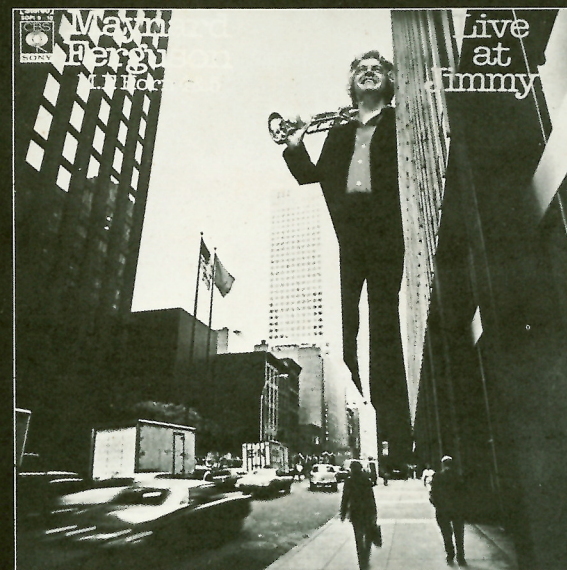


感動させる音。

YAMAHA JAZZ INSTRUMENTS

PA SYSTEM COMBO ORGAN
AMPLIFIER DRUMS GUITAR

これで“ジミース”の将来も約束された。



ニューヨークのどまんなかに誕生した、新しいジャズ・クラブ“ジミース”。その名は長くファンに伝えられるだろう。メイナード・ファーガソンのイギリスからの帰国コンサートを飾った場として。おりしも'73年ニューポート・ジャズ・フェスティバル・ニューヨークの開かれている盛夏。ハイノートの連続するリッチなサウンド、豪快にドライブするリズム。これぞまさに、新しいビッグバンド！といたいエキサイティングでホットな音を聴かせるライブ・アルバムだ。

来日
記念盤

■M.F.ホーン4&5 / ライブ・アット・ジミース

メイナード・ファーガスン

パーソネル:メイナード・ファーガスン(tp, leader) / ボブ・サマーズ(tp, flh) / ランディ・パーセル、クラハム・エリス(tp) / アンディ・マッキントッシュ(as, ss, fl) 他 SOPL-9-10 ¥3,600



■明日に架ける橋

曲目:ムーブ・オーバー / ファイヤー・アンド・レイン / 輝く星座 / ザ・サーベント / マイ・スイート・ロード / 明日に架ける橋 / ユア・ソング / 他全9曲

EOPL-54 ¥2,200



■M.F.ホーン・1

メイナード・ファーガスンの世界

曲目:チャラ・ナタ / 心変わりと言わないで / エル・ド・バ / イーライズ・カミン / マックスのバラード / 他全6曲

EOPL-89 ¥2,200



■M.F.ホーン・2

メイナード・ファーガスン

曲目:ギブ・イット・ワン / カントリー・ロード / 黒いジャガーのテーマ / おもいで夏 / マザー / 他全9曲

EOPL-72 ¥2,200



■M.F.ホーン・3

曲目:オーライト・オーライト / ラウンド・ミッド・ナイト / ナイス・ジューシー / ポカホンタス / バラキの愛のテーマ / マザーフィンガーズ / S.O.M.F.

EOPL-104 ¥2,200

もしや、あの彼では。

あの、世界的な人たちを
あなたのすぐ隣りに見かけるかもしれませんね。
世界100以上の都市を結ぶ国際色あふれた
パンナムをご利用になれば。



●パンナムはご存じのように、世界で最も経験ある、アメリカの航空会社。100有余もの世界の都市を、完全にネットしています。だから、お客さまの国籍も実にさまざま。おやっ!と思う人と一緒になれる、憧れのスターと同席できるかも...という密かな楽しみだってあるわけです。

●それはともかく。出発のときから国際ムードに包まれると、海外へ飛ぶんだという気持ちにも、新たな区切りがきます。旅そのものにまで、ふくらみが出てきますね。押しつけのないサービス。自由な

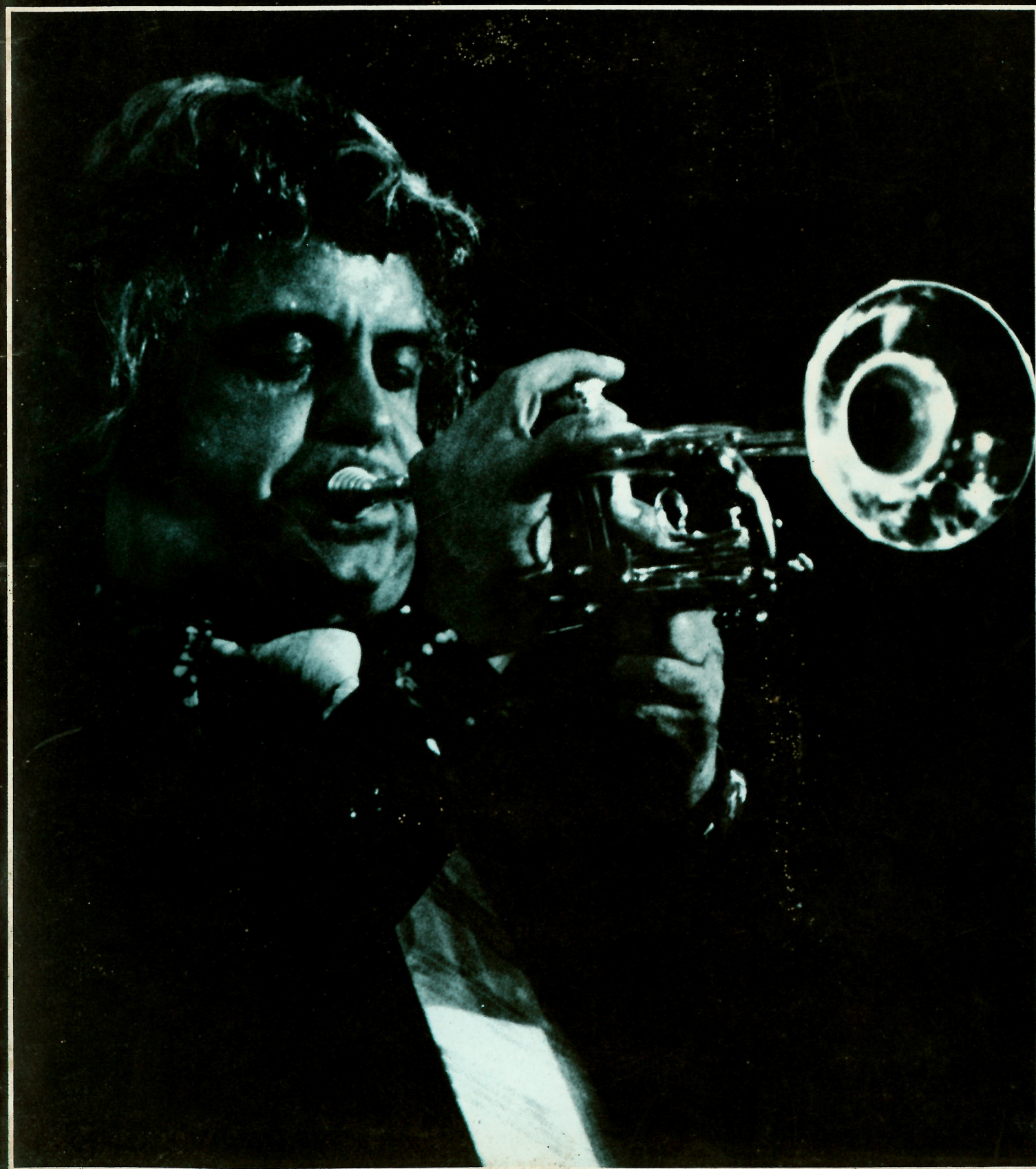
くつろぎも快適。パンナムが、旅なれた人たちに多くご利用いただくゆえんです。

- 爽快なハワイの朝へ、ホノルル9:10着。グアム、香港へも、毎日出発しています。
- 大阪からもご利用いただけます。グアム便は火・金・土。ニューヨーク便は日・水・土。



PAN AM.
世界で最も経験ある航空会社

MAYNARD FERGUSON ORCHESTRA



旅なれた人の、パンナム。

お問合せ、お申込みは右記のパンナム・オフィス、または、お近くの航空代理店へどうぞ。

東京(03)216-6711
大阪(06)271-5951

ホテル・オークラ(03)582-0111 内線4800
沖繩(09893)7-3411

横浜(045)681-3321

名古屋(052)571-5488

京都(075)241-2727